

米空軍グローバルホークの横田飛行場への 一時展開（暫定措置）に関するQ&A

Q

グローバルホークはどういう航空機ですか。

A

- ・ グローバルホークは、I S R（情報収集・警戒監視・偵察）を任務とする高高度滞空型無人偵察機であり、世界各地で多くの任務に従事しています。その特徴は以下のとおりです。
 - ・ 画像等の情報収集を実施
 - ・ 攻撃能力なし
 - ・ 高度5万フィート（約1万5千m）以上で航行
 - ・ 無線通信及び衛星通信により地上から操縦

Q

なぜグローバルホークが横田飛行場に一時展開（暫定措置）することになったのですか。

A

- ・ グアム島のアンダーセン米空軍基地を拠点に運用しているグローバルホークについては、夏季における台風等悪天候の影響を回避し、より安定的な運用を確保するため、平成26（2014）年から三沢飛行場へ一時展開を行っています。
- ・ 平成29（2017）年は、三沢飛行場において5月から7月までの間、滑走路改修工事により滑走路が閉鎖されるため同飛行場へ一時展開が行えないことから、暫定措置として横田飛行場に一時展開するものです。

Q

横田飛行場への一時展開（暫定措置）とはどのような内容ですか。

A

- ・ 現在、グアムを拠点に運用されているグローバルホーク5機（ブロック30型×2機及びブロック40型×3機）が暫定措置として横田飛行場に一時展開するとともに、運用のための追加要員（パイロットや整備員を含め約110名）及び必要な機材が同飛行場に一時的に配置される予定です。
- ・ 本年の機体の展開期間は、5月1日から10月31日までを予定していますが、天候等の影響により変更される可能性もある旨米側から説明を受けています。

Q

日本におけるこれまでの運用実績はどのようなものですか。

A

- ・ グローバルホークは、平成26年及び平成27年に三沢飛行場へ一時展開してのほか、平成23年の東日本大震災におけるトモダチ作戦の参加（福島第1原発撮影）、平成28年の嘉手納飛行場への飛来、三沢飛行場航空祭への参加、三沢飛行場への飛来（通信機器の更新）が行われています。



ブロック30型と40型は何が違うのですか。

- 米側からの説明によれば、ブロック30型は電子光学・赤外線・合成開口レーダー及び信号情報センサーを備え、多目的情報プラットフォームとして部隊配備されている主力機です。
- ブロック30型と40型で異なる点は、搭載機器のみ（異なる機能を有する情報収集用機器が積載されている。）であり、エンジンを含め機体構造は同じであり、安全性や騒音に違いはありません。



グローバルホークはグアムから横田飛行場へどのようにして移動してくるのですか。

- グローバルホークは、グアムから直接飛行し、横田飛行場に着陸する予定です。



グローバルホークは無人機ですが、どういう方法で操縦されるのですか。

- 横田飛行場に一時展開したグローバルホークは、離着陸時は同飛行場に設置される設備から、また、離陸後の上昇により十分な高度に至った後は米国にある施設から、それぞれ米空軍のパイロットが操縦します。



グローバルホークを操縦するパイロットはどのような人ですか。

- 米空軍の無人機操作の基礎課程を修了した者及び一般的な操縦資格を与えられたパイロットのうち、グローバルホークパイロット候補生となった者は、米空軍の本機種に関する特別訓練を受け、無人機操縦の資格を得ることとなっています。



グローバルホークは安全に運用されるのですか。

- 横田飛行場に一時展開する予定のグローバルホークについては、これまで重大な事故は発生しておらず、米国、欧州等をはじめとする他の国・地域において安全に運用されています。
- グローバルホークには、故障等の不測事態に備えた設計がなされており、例えば、複数の通信回路が組み込まれるなど冗長性を確保されており、これまで運用中に通信が全くできなかった事態は生起しておりません。
- 実際の運用においては、グローバルホークは、有人の航空機と同じく管制の指示に従って航行する機能等を備えており、民間航空機との安全間隔を確保するため、日米関係当局で予め調整した経路を飛行しますが、その間、人口密集地を極力回避し、かつ高高度で飛行するといった安全確保のための措置がなされています。
- 我が国における運用に際して、飛行場の使用や運用の安全性確保の観点から調整を要する事項等について、日米関係当局で協議の上、手続等を定めています。

Q

A

グローバルホークは無人機ですが、他の航空機と衝突を避けるため、どのような対策が取られているのですか。

- ・ 我が国におけるグローバルホークの運用に際しては、飛行場の使用や運用の安全性確保の観点から調整を要する事項等について、日米関係当局で協議の上、手続等を定めています。
- ・ グローバルホークは、これらに従い、基本的には通常の航空機が航行しない5万フィート以上の高高度を航行します。
- ・ 離着陸のための上昇降下時など他の航空機と同じ高度帯を飛行する際について、レーダーで捕捉され管制の指示に従って航行することにより他機とは適切に分離されます。加えて、有視界飛行方式で飛行する他の航空機に対して、その時間と場所等の必要な情報が提供されることとなります。

Q

A

グローバルホークの横田飛行場における騒音規制措置を守り運用されるのですか。

- ・ 米側は、横田飛行場における騒音規制措置について、可能な限り配慮するとともに、周辺住民への騒音の影響を軽減し、できる限り騒音を削減するよう最大限努力するとしています。

Q

A

グローバルホークの音はうるさくないのですか。

- ・ グローバルホークは、比較的小型の民間航空機に使用するジェットエンジンの派生型エンジンを使用していることから、戦闘機等に比べ周辺地域への騒音の影響は少ない機体と考えられます。
- ・ 東北防衛局が三沢飛行場の滑走路端の西側に設置している航空機騒音自動測定装置の測定結果によれば、平成26年5月に同飛行場へ飛来した際の騒音値（騒音暴露レベル）は、約79デシベルです。
- ・ この騒音値は、C V-22の横田飛行場配備に関する環境レビューに記述のある同飛行場の配備機種（騒音暴露レベル）と比較すれば、C-130及びUH-1より小さく、C-12と同程度となっています。

（参考）

横田飛行場の配備機種（騒音暴露レベル）

- ・ C-130 約91デシベル
- ・ UH-1 約91デシベル
- ・ C-12 約79デシベル

※地上から約1000フィート（約300メートル）の高度

防衛省作成パンフレット「C V-22 オスプレイについて」より抜粋